

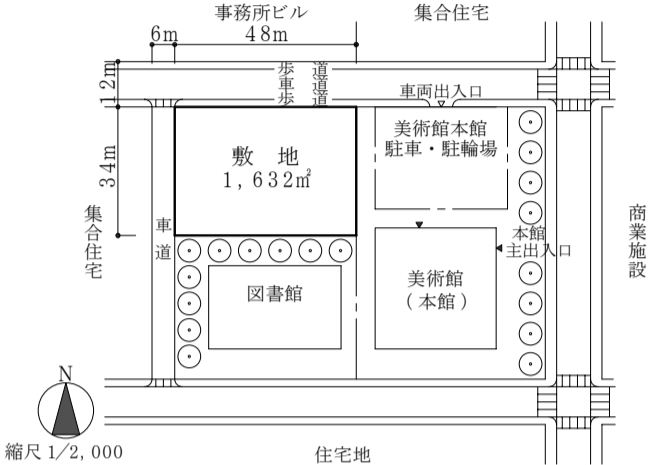
練習課題 2 美術館の分館

I. 設計条件

この課題は、ある地方都市の市街地において、既存の美術館に隣接する敷地に、美術と伝統工芸の周知と普及を目的とした美術館の分館を計画するものである。
この施設では、地元出身画家の絵画を展示・収蔵するとともに、地域に根ざした陶器及び手漉き和紙を来館者自身が創り出す体験を通じ、身近に芸術文化を感じ取ることができ、これを地域の観光資源として活性化を図るものである。
また、計画に当たっては、環境負荷低減のため、空調負荷の抑制や自然光を利用し、快適な室内環境が得られるよう配慮するものとする。

1. 敷地及び周辺条件

- 敷地の形状、接道条件、周辺状況等は、下図のとおりである。
- 敷地は、平坦で、道路及び隣地との高低差はないものとする。また、歩道の切り開きは、1箇所あたり6mまでできるものとする。
- 敷地は、準住居地域及び準防火地域に指定されている。また、建蔽率の限度は70%（特定行政庁が指定した角地における加算を含む。）、容積率の限度は200%である。
- 電気、ガス及び上下水道は、完備している。
- 地盤は、良好である。なお、支持地盤はG.L. - 2.0mとし、支持地盤以深の圧密沈下及び液状化の可能性はなく、杭打ちの必要もない。
- 気候は温暖であり、積雪についての特別の配慮はしなくてよい。



2. 建築物

- 構造、階数等
構造種別は自由とし、地上3階建ての1棟の建築物とする。
- 床面積の合計
床面積の合計は、2,400㎡以上、2,800㎡以下とする。
この課題の床面積の算定においては、ピロティ、塔屋、バルコニー及び屋外階段等は、算入しないものとする。なお、ピロティ等を屋内的用途に供するもの（娯楽スペース、設備スペース、駐車場等）については、床面積に算入するものとする。
- 要求室
下表の室は、すべて計画する。

部門	室名	特記事項	床面積	
展示部門	市民ギャラリー	企画展示の他、多目的に利用する。 2室に分割して、それぞれ個別に使用することができるようにする。 無柱空間とし、天井高さは6.5m以上とする。	約200㎡	
	展示資料室	市民ギャラリーの展示品に関して、資料展示を行う。	約60㎡	
	常設展示室	地元出身の画家による作品を常設展示する。	約250㎡	
	ミュージアムショップ1	カウンター、ショーケースを設け、展示品カタログの他、地元の陶芸品、和紙製品を展示販売する。	約50㎡	
	ラウンジ	ソファセットで15人程度が利用できる。	適宜	
	団体待機スペース	20人までの団体が待機できるスペースとする。	適宜	
創作支援部門	陶芸工房	既製素焼きに絵付けの実習、指導を行うほか、造形作業からの複数日体験もできる。 無柱空間とし、屋上庭園へ直接行き来できる。	約160㎡	
	研修室	椅子、テーブルで30人程度が陶芸作業前に、作業工程等を映像学習できる。	約60㎡	
	アトリエ	椅子、作業机で25人程度が小版のオリジナル手漉き和紙の創作ができ、収納、紙漉き水槽(1m×2m)、乾燥機(1m×2m)、流し台を設ける。 準備室(面積適宜)を付設する。	計約100㎡	
	図書室	20人程度が利用できる閲覧席、美術関連の書架、司書カウンターを設ける。	適宜	
	休憩コーナー	椅子、テーブルで20人程度が利用できる。	適宜	
	共用・管理部門	ミュージアムショップ2	カウンターを設け、陶芸工房、アトリエでの実習に必要な用具、材料を販売する。	約20㎡
共用・管理部門	エントランスホール	美術館本館からのアプローチにも配慮する。 風除室、券売機、コインロッカーを設ける。 上部に3層に渡る吹抜け(40㎡以上)を設ける。	適宜	
	休憩コーナー	椅子、テーブルで20人程度が利用できる。	適宜	
	喫茶室	椅子、テーブルで30人程度が利用できる。 厨房カウンター、レジカウンターを設ける。 エントランスホール及び外部道路からも直接アプローチできる。	適宜	
	事務室	4人分の事務スペースとし、受付カウンターを設ける。	適宜	
	分館長室		適宜	
	学芸員室	学芸員2人の執務スペースとする。	適宜	
	応接室		適宜	
	職員更衣室	男性用、女性用として各1室を設ける。	適宜	
	講師控室	陶芸工房の指導員が利用する。	適宜	
	守衛室	守衛は1人とする。	適宜	
	荷解き室	美術品搬入車両(6.5m×2.5m)が乗り込み、後部に荷解きスペースを設ける。	約80㎡	
	収蔵庫	前室を設ける。	約80㎡	
	設備スペース	設備機器の搬出入及び更新に配慮する。		適宜
		電気設備スペース	屋上に計画し、面積は約40㎡とする(床面積には算入しない。) 受変電設備、非常用発電設備を設ける。	-
機械室		空調設備、水槽類、ポンプ等を設ける。	適宜	
・便所及び多機能便所、ごみ保管庫、商品倉庫及び倉庫については、適切に計画する。 ・その他必要と思われる室等は、適宜計画する。				

3. 屋外施設

- 緑豊かな屋上庭園は、1階の屋上又は2階の屋上に設け、まとまったスペース(上部に庇がある部分を含めてもよい。)で160㎡以上とし、植栽、ベンチ、手洗い流し、粘土器の乾燥棚(1m×3m)等を設ける。
- 創作広場は地上に設け、まとまったスペース(上部に庇がある部分を含めてもよい。)で160㎡以上とし、屋外用の椅子、テーブル、植栽、テラス等を設け、アトリエと一体的に利用できるものとする。また、美術館本館からのアプローチにも配慮する。
- 駐車場は、地上に平面駐車とし、車椅子利用者用として2台分、サービス用として1台分を設ける。なお、来館者及び職員用の一般車及び自転車は美術館本館側の駐車場・駐輪場を利用するものとし、分館へは本館敷地を経由してもよい。

4. 留意事項

- 建築計画、構造計画及び設備計画については、次の点に特に留意して適切に計画する。
- 隣地美術館本館の施設等と一体的に利用できるように配慮するとともに、周辺環境に配慮して計画する。
 - バリアフリー、省エネルギー、セキュリティ等に配慮して計画する。
 - 各要求室を適切にゾーニングし、明快な動線計画とする。
 - 地盤条件や経済性を踏まえ、建築物の基礎構造を適切に計画する。
 - 構造種別に応じた、架構形式及びスパン割りを適切に計画するとともに、適切な断面寸法の部材を配置する。
 - 空気調和設備、給排水衛生設備、電気設備、消火設備、昇降機設備等を適切に計画する。なお、給水方式は受水槽方式とし、収蔵庫及び常設展示室の空調方式は単一ダクト方式とする。
 - 建築物の外壁の開口部で延焼のおそれのある部分には、所定の防火設備を適切に計画する。また、防火区画が必要な部分には、所定の防火設備を用いて適切に区画する。
 - 避難階又は地上に通ずる2以上の直通階段を適切に計画する。また、必要に応じて、「敷地内の避難上必要な通路」を適切に計画する。

II. 要求図書

答案用紙Ⅰ及び答案用紙Ⅱの定められた枠内(寸法線については枠外でもよい。)に、黒鉛筆を用いて記入する。

1. 要求図面(答案用紙Ⅰに記入)

下表により、所定の図面を作成し(フリーハンドでもよい。)、必要な事項を記入する。
なお、各図面には、必要に応じて、計画上留意した事項について、簡潔な文章や矢印等により補足して明示する。

図面及び縮尺	特記事項
(1) 1階平面図兼配置図 1/200	① 各平面図には、次のものを図示又は記入する。 イ. 建築物の主要寸法(スパン割り及び床面積の計算に必要な程度) ロ. 室名等、要求室の床面積 ハ. 設備シャフト〔パイプシャフト(PS)、ダクトスペース(DS)、電気シャフト(EPS)]の位置 ニ. 設備計画に応じた設備スペース ホ. 断面図の切断位置 ヘ. 要求室の特記事項に記載されている什器等 ト. 建築物の外壁の開口で延焼のおそれのある部分の範囲 チ. 凡例を用いた防火設備、特定防火設備の位置 ② 1階平面図兼配置図には、次のものを図示又は記入する。 イ. 建築物の出入口(▲で表示)、通用口(△で表示) ロ. 駐車場(台数及び出入口を明示する。) ハ. 創作広場(面積、屋外ファニチャー等) ニ. 通路、植栽等
(2) 2階平面図 1/200	③ 2階平面図及び3階平面図には、次のものを図示又は記入する。 イ. 居室の最も遠い位置から2つの直通階段に至る歩行経路、それらの距離及び重複区間の距離 ロ. 下階の屋根、ひさし等となる部分 ハ. いずれかの階に屋上庭園(面積、植栽、屋外ファニチャー等)
(3) 3階平面図 1/200	④ 3階平面図には、次のものを図示又は記入する。 イ. 屋上の電気設備スペースの位置(点線で表示)及び面積
(4) 断面図 1/200	① 切断位置は、エントランスホールの吹抜けを含む東西方向とし、建築物の全体の立体構成がわかる断面とする。なお、水平方向、鉛直方向の省略は行わないものとする。 ② 屋上に設備スペースを設けた場合は図示する。 ③ 塔屋を除く建築物の高さ、階高、天井高、1階床高及び主要な室名を記入する。 ④ 基礎、壁、梁及びスラブの断面を図示する。

2. 面積表(答案用紙Ⅰに記入)

- 建築面積を記入し、その算定式も記入する。
- 各階の床面積及びその合計を記入する。なお、各階の床面積については、その算定式も記入する。
- 建蔽率及び容積率を記入する。

3. 計画の要点等(答案用紙Ⅱに記入)

- 建築計画、構造計画及び設備計画について、次の(1)～(8)の要点等を具体的に記述する。なお、要求図面では表せない計画についても記述する。
- 周辺環境に配慮して、建築物及び屋外施設の配置について考慮したこと
 - 各部門諸室の断面構成について配慮したこと
 - 常設展示室における絵画の鑑賞経路及び避難経路の計画について考慮したこと
 - 美術品の搬入経路の計画について考慮したこと
 - 地盤条件(地表(G.L.)から2mの深さまでは表土、2m以深はN値=20以上の密実な砂質地盤である。なお、水位はG.L. - 2.5mである。)及び「経済性」を踏まえて、採用した基礎構造の形式について考慮したこと
 - 建築物全体の「構造種別・架構形式」、「スパン割り」及び「主要な部材の断面寸法」について考慮したこと
 - 市民ギャラリー及び常設展示室の空調計画について考慮したこと
 - 環境負荷低減(熱負荷の抑制、省エネルギー効果)の手法として、「太陽熱」、「地中熱」、「井水」のうちから2つ選択し、これらの利用方法及び省エネルギー効果について考慮したこと(選択したものを○で囲むこと)

一級とるぞ! .Net

http://19toruzo.net/

20190827

試験場	受験番号	氏名